



経済交流推進へ論議

対サハリン
 稚内商工
 会議所 岩下北大教授らと

【稚内】国境問題が専門の北大スラブ研究センターの岩下明裕教授と稚内商工会議所幹部らによる、稚内とサハリンとの経済交流をテーマにした意見交換会が1日、宗谷経済センターで開かれた。

「ワツコル」を設立し、石油天然ガス開発事業サハリン2のプラント建設に参入した状況を岩下教授に説明。藤田幸洋・藤建設社長も「稚内にながら世界中と価格交渉していた」様子を紹介した。

多方面でサハリンとの経済交流を進めるための意見交換もした。岩下教授は「稚内がサハリンの中でもっと認知されるよう、稚内から人が出向く一方、ロシア人観光客にも『稚内に来ると楽しい』と

思わせるソフトが必要」と助言。ツアー客は、昨年11月に北大が主催して長崎県対馬市で開かれた国境フォーラムに、藤田社長と佐藤課長が出席したことがきっかけで、実現した。

(小林亨)



稚内とサハリンとの経済交流について活発に意見を交わす岩下教授(左から2人目)ら

富田組社長が、2001年に稚内建設会館とロシア企業が合併会社

常議員の富田伸司・富田組社長が、2001年に稚内建設会館とロシア企業が合併会社を設立し、石油天然ガス開発事業サハリン2のプラント建設に参入した状況を岩下教授に説明。藤田幸洋・藤建設社長も「稚内にながら世界中と価格交渉していた」様子を紹介した。多方面でサハリンとの経済交流を進めるための意見交換もした。岩下教授は「稚内がサハリンの中でもっと認知されるよう、稚内から人が出向く一方、ロシア人観光客にも『稚内に来ると楽しい』と